

JA自己改革推進レポートについて

令和5年9月26日
JA鳥取県中央会

1. JA自己改革実践状況

(1) JA鳥取西部の取り組み

①小学生が地元特産「スイートコーン」の収穫を体験

JA鳥取西部青壮年部名和支部は7月5日、名和小学校のスイートコーンの収穫体験に協力した。児童は2疇のほ場に見事に実ったスイートコーンを青壮年部員のサポートを受けながら次々と収穫した。収穫後は、茹でたてのスイートコーンを試食し、児童からは「おいしい」「すごく甘い」「もう一本食べたい」などの声が上がった。



②日本初の白ねぎ種子を使ったクラフトビール「境港シロネギエール ねぎ坊主」完成

JA鳥取西部は7月11日、境港市で「境港シロネギエール ねぎ坊主」の完成発表と試食会に参加した。平井鳥取県知事や伊達境港市長、JA鳥取西部の中西組合長ら関係者が出席し、オープニングセレモニーで除幕を行った。また、お披露目会で、JA白ネギ料理研究会などが提供した天ぷらやチーズ巻きなどの白ねぎ料理7品とともに「ねぎ坊主」を味わった。



「境港シロネギエール ねぎ坊主」は、境港

観光協会と境港市の食品会社「日本食品工業」が地元特産を使った料理に合うビールとして、白ねぎの種を原料に加えた日本初のクラフトビールとして開発された。県オリジナル品種「改良伯州5号」の種子を使用し、一般的なビールに比べ薄めの色合い。口当たりはなめらかで、苦みを抑えた切れのある味が特徴である。

※「境港シロネギエール ねぎ坊主」は、同協会が開発を企画し、米子市の「475 BEER」が醸造。

③夜空を照らす稲穂のような米子がいな万灯

J A鳥取西部青壮年部やJ A職員らで構成する「J A万灯会」は8月19日、米子市で開かれた第50回米子がいな祭の万灯パレードに参加し、祭りを盛り上げた。パレードには「J A青壮年部万灯隊」と女性のみで構成する「J Aこまち万灯隊」が出場。J Aの役職員やJ A女性会役員らも応援に駆けつけ、万灯隊にエールを送った。万灯隊員らは背中に「農」の文字をあしらった揃いのハッピー姿で、こうべを垂れた稲穂のような米子がいな万灯を夜空に天高く掲げ、額や肩、腰などに乗せる妙技を披露した。

同J Aは、2012年からJ AのPRや地域活性化の一環として参加している。



以上